



創立1880年  
〒169-0051  
東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館6階  
Tel 03-6302-1960  
URL http://tokyo.ymca.or.jp/  
発行所 公益財団法人 東京YMCA  
発行人 菅谷 淳

# 東京YMCA

# 9

2020年

## 東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

## 東京YMCA創立140周年／キャンプ100年記念 インタビュー

# ボランティアの輪 広げた 山崎 美貴子さん

### 山崎 美貴子さん

明治学院大学卒業。立教大学大学院修了。  
英国マンチェスター大学留学。ボランティアセクター等について学ぶ。  
1998年～明治学院大学副学長  
2007～2011年神奈川県立保健福祉大学学長  
1986年～東京ボランティア・市民活動センター所長。  
国民生活審議会などNPO等に関する政策決定に参画。  
日本福祉教育・ボランティア学習会会長等を務める。  
「広がれボランティアの輪」連絡会議会長のほか、  
東京災害ボランティアネットワーク代表。  
東京YMCAアドバイザー。



少子高齢化が進み、地域社会の姿が変わりつつある今、次代のYMCAには何が期待されるのか。東京ボランティア・市民活動センター所長の山崎美貴子さんに、ご自身のYMCAでの経験と併せて、これからのコミュニティ社会について伺いました。

(聞き手 東京YMCA本部事務局長・山添 仰)

# 「みつかる。」から

# 「みつげる。」へ

### YMCAとの出会い

——私とYMCAとの出会いは1960年頃、明治学院大学の学生だった時に、「肢体不自由児キャンプ」にボランティアとして参加したのがきっかけでした。大学の福田垂穂先生が当時、そのキャンプ長を務めていたことから参加しました。その頃は障がい児には「就学猶予」という制度があったので、学校に通って学習する義務がなく、また通所型の施設もあまりなかったため、家から外に出る機会がまったくない、つまり家族以外の人と出会ったことがないという子どもがたくさんいた時代でした。このキャンプは、そんな子どもたちに外出の機会を作ろうと始められたもので、脳性まひやポリオの後遺症、言語障がいなど、さまざまな種類の障がいのある子どもたちが参加していました。

私は学生の間は毎年このキャンプに参加して、大学の教員になってからは学内にポスターを貼って周知し、学生を連れて参加しました。ですから、夏になるとYMCAのキャンプに行く。その前はYMCAでトレーニングを受ける。そういう日々を過ごしました。

キャンプ前のトレーニングは充実していて、キャンプの基本、肢体不自由児の心得、介護の仕方などを、小児科や整形外科の先生方など各界のベテランの方々と丁寧にご指導いただきました。さらに「リーチアウト」といって、障がいのある子どもたちのお宅を訪問してキャンプに参加することを勧めたり、またキャンプ前には、食事の仕方や介助の仕方、日々うやうやしく過ごしているのかなどを事前にご家族から教えてもらうという研修もありました。本当に、他では得られなかったことを教えていただきました。

### 転機となった少女との出会い

まだボランティアを始めて間もない頃のことでしたが、キャンプで一人の中学生の女の子を担当した時のことでした。山中湖の広い芝生に寝転んで、汗びっしょりになって、汗びっしょりかいて、チアノーゼみたいな状態になってしまったのです。私は慌てて車いすに戻して大事には至らな

かったのですが、彼女は怖かったんですね。人生で初めて家の外に出て緊張しているときに、降りたことのない車いすから降ろされて、草の上に私たちと一緒に座るといのは、彼女にとっては人生最大のビックリな出来事で、怖いことです。

私はこの時、「なんて自分は分かってないんだろ」と、心底自分に呆れかえってしまっただけですね。善意はあっても、本当の意味で誠意がない。その子の方が理解できていなかった。そしてこの体験が私を変えてしまったのです。

### 一番の心配は社会的な孤立

——山崎先生はソーシャルワーカーとして、子ども・家族・地域社会を研究の領域にされていますが、これからの社会を考えたとき、どんな課題があると思われるか。

——これからの時代を考えたとき一番心配なのは、社会的な孤立の問題です。これまで日本にあった「三つの安全弁」、つまり家族、地域共同体、職場という三つの安全弁のかたちが変わり、十分に機能しなくなっています。この三つはそれぞれ関係していて、日本にはこれまで大きく分けて三つの時代変遷がありました。

明治から昭和20年代までの日本の家族は、三世代同居の大家族の割合が高く、農業や漁業など第一次産業を家族単位で行なう、生産型の自営業のような家族形態が多い時代でした。明治になって工業化の波が入ってきた日本は、長子単独相

### 赤三角

コロナ禍の中、聖句「順境の日には喜び、逆境の日には考えよ。」(旧約聖書コヘレトの手紙7章14節)を思います。歴史は「順境」と「逆境」の繰り返しに違いありません。逆境の日には考えよ。このことはコロナ禍の私たちにポジティブな気持ちを促します▼私は東京YMCA高等学院で講師として数学を教えています。4月からずっと休講状態でしたが、5月からオンライン授業が始まりました。まさかこの年(70歳)になって、オンライン授業など思いもよらなかったことです。が、いざやってみるとリットも見えてきました▼高等学院は、さまざまな生きにくさ、違和感を感じている人が共に学ぶ場を作っています。オンライン授業では、生徒は「顔も見せず、声も出さず」ということが可能です。教室での授業では欠席もありましたが、オンラインではほとんど欠席がありません。回数を重ねるごとにミュートがはずされ(声が聞かれ)てきました。コロナが少し収まってきて、授業がオンラインとライブの併用となり、ライブの方を選ぶ生徒もできました▼「リモートによるつながり」はコロナ禍の中で「新しいつながり」をもたらしています。(評議員 伊藤幾夫)

II 一面より

続などの旧民法を制定して家制度を大切に、教育上も「忠孝思想」を教えて、「家族」という強固な絆を守り続けまし

たのです。それが昭和30年代になると、集団就職等で首都圏、中京圏、阪神圏など大都市圏に仕事を求めて人口が大移動して、急速に都市化・工業化が進んだわけでは、団地がいっ

ばいできて人口の7割がまさまなボランティア活動が始まりました。私が東京ボランティアセンターに関わり始めた平成初

期には、主婦層を対象に多様なボランティア講座が開かれました。その時期の女性たちがボランティアに厚みをつけていき、地域社会をどんどん耕していったのです。

活用するなど「ケアの外部化」が起きてきました。家族の多様化、個人化と、ケアの外部化がミックスでおこり、合わせてコミュニティが変化した。地域社会の役割が変化していったのです。

それに追い打ちをかけるように雇用形態が多様化し、一つの企業で定年まで働く終身雇用ではなく、非正規雇用が増加し、中産階級とよばれる人たちが少なくなってきた。子どもの7人に1人が貧困家庭で育ち、沖縄では29・3%と、約3人に1人が貧困状態です。格差社会が拡がり、先行きの見えない暮らしと、人とながらなことを困難にする深刻な孤立は、人間社会を不安定にします。

いいますが、一人で生活していくのは厳しいのが現実です。奨学金をもらって進学する子もいます。中途退学の率が高くて、大半が非正規雇用で働いています。そのためコロナ禍の影響も受けやすく、職を失い、頼れる実家もないまま追い詰められている実態が浮かび上がってきました。私たちは企業から寄付を得てその行方を追い、連絡のとれた2500人の若者を卒園した施設とつなぎ直そうと試みています。一人ぼっちを作らないプロジェクトの模索です。

日本の社会は、大きな変質を遂げています。彼らに限らず、家庭にも学校にも居場所がない子どもたちや、子育てに行き詰まっている親、外国籍の方、一人暮らしの高齢者など、孤立して苦しんでいる人が至る所にいます。

「地域の中心に支え合うシステムを」と、YMC AをはじめNPOに、これまでの地域共同体に代わる働きが求められているのでしょうか。

「山添」その中で、YMC AをはじめNPOには、これまでの地域共同体に代わる働きが求められているのでしょうか。

「山添」その中で、YMC AをはじめNPOには、これまでの地域共同体に代わる働きが求められているのでしょうか。

「核家族」から「現代家族」へ

諸外国はこの核家族時代が長く続きましたが、日本は核家族の時代への移行が遅かったために、短期間で「現代家族」の時代になりました。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

コロナ時代としっかり向き合う

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。



2019年度の「肢体不自由児キャンプ」



「核家族」から「現代家族」へ 諸外国はこの核家族時代が長く続きましたが、日本は核家族の時代への移行が遅かったために、短期間で「現代家族」の時代になりました。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

「山添」今年にはコロナ禍もあり、さらに不確実な状況になっていきます。

東京YMCA総主事 菅谷 淳 総主事カフェ 総主事カフェによるこそ。コロナ禍に自宅で巣ごもりしていると、おもむろに断捨離が始まり押し入れの奥にある開かずの段ボール箱を次々と開けてみました。すると受験生だった頃の懐かしい英語の参考書や問題集が出てきました。

# コロナ禍の夏に アイデア駆使して



野尻キャンプでヨットを満喫するご家族。参加者アンケートには「時間やルールに縛られず、家族でゆったり過ごさせてリラックスできた」「キャンプに慣れない小さい子どもも無理なく楽しめた」など、たくさんの感想が寄せられました。



YouTube配信したリーダーたち。当日の映像は下記をご覧ください。  
<http://tokyo.ymca.or.jp/camp/2020/07/20200727.html>



「3密」を避けてキャンプをするにはどうしたらいいか……。現地集合解散にし、家族で参加いただく。Y M C A 山中湖センターと野尻キャンプを、各定員10家族限定で広々と使う。プログラムは自由参加とする。——そんな新しい形式のファミリーキャンプを試みたところ大変好評で、受付直後からキャンセル待ちが相次ぎ、8月下旬の追加開催も含めて計7本実施し、60家族223人が参加しました。

計37家族138名が参加。総勢28名のリーダー・スタッフが対応にあたりました。キャンプではなく「トリート」(日常を離れた余暇の意)とした理由

## リーダーが「YouTube配信」歌やクイズ等 ライブ配信

8月10日から14日まで5日間、毎日16時から1時間、毎週土曜日、Y M C A のボランティアリーダーたちが、キャンプソングやクイズなどをYouTubeライブ配信しました。この新企画「リーダーといっしょ」は、キャンプに参加できなかった

子どもたちにも「どこにいても、そばにいる」と感じてもらえればと願って無料で開催したもので、都内5カ所のコミュニティセンターが日替わりで分担し、それぞれのリーダーたちがプログラム内容を深めていきま

子どもたちにも「どこにいても、そばにいる」と感じてもらえればと願って無料で開催したもので、都内5カ所のコミュニティセンターが日替わりで分担し、それぞれのリーダーたちがプログラム内容を深めていきま

か、真剣に考えて台本作り、何度もリハーサルをして準備しました。リーダーの目の前にいるのは、子どもたちではなく画面。リアクションはチャットに書き込まれていく文字でしたが、「一緒に歌ってるよ」「楽しい！」といった投稿をいただき、画面の向こうに「いっしょにいる」みんなを感じることができました。今後、知恵を借り、今求められるものを生み出していくY M C A でありたいと思います。(西東京センター 出沼一弥)

## 東京山手ワイズメンズクラブが解散 ～67年間の奉仕に感謝

67年間にわたって東京Y M C A をご支援くださった「東京山手ワイズメンズクラブ」が、今年6月末に解散しました。同クラブを代表しメンバーの功能さんにその軌跡や思いを寄稿いただきましたのでご紹介します。なお、解散にあたり同クラブより約100万円の寄付をいただきました(=4面)。長年のご奉仕に感謝してご報告します。

\*「ワイズメンズクラブ」は、世界66カ国で活動する国際的な奉仕団体で日本には140のクラブがあり各地のY M C A をサポートしています。

### 「あいさつ」

東京山手ワイズメンズクラブは1952年9月に開館した山手プラザ(現山手コミュニティセンター)を支援する目的で、翌53年9月に設立されました。東京クラブの理想に燃えた若き7人が中心になって作り上げた東京で2番目のクラブでした。

### 功能 文夫

ラブの淵田多穂理の訳詞で62年に誕生、まず山手クラブで歌われ、各地のワイズグになりまして。ワイズ運動発展のために新クラブ創設にも挑戦し、61年に「東京世田谷」、66年に「東京目黒」、2016年解散、さらに89年に「東京サンライズ」を誕生させ、2002年には女性会員だけの「東京たんぼ」を東京西クラブと共同で誕生させました。

2013年にクラブ60周年を力強く祝いましたが、その後は将来を担う新会員の増強が進まないなか高齢会員等の退会が続き、活動の継続が困難な状況に至りました。2022年の山手センター70周年、国際ワイズ100周年を目前にしながら残念ではありますが解散を断念しました。ラストメンバーズ11名中5名は他クラブに転会してワイズ活動を続けてまいります。

(1982年山手クラブ入会)

## 「芸術祭」もオンラインで実施

絵画・陶芸など63作品 Webで公開



9月末までホームページ上で開催中。  
<http://tokyo.ymca.or.jp/>



東京Y M C A の会員・関係者が趣味の作品を披露する「東京Y M C A 会員芸術祭」は、23回目を迎えた今年、新型コロナウイルスの影響により「オンライン芸術祭」とし、ホームページ上で開催しました。出展された

のは、絵画や手芸、陶芸、書画など、42名の会員・関係者による63点の作品で、すべて写真撮影してホームページで公開しました。実際の展覧会とはだいぶ異なりましたが、「地方でも見ることができた」「額縁などが加わってあって、思ったよりクオリティが高かった」「新たな時代の一つの方法ですね」など好評でした。作品は9月末まで公開中。ご意見・ご感想も受け付けております。(東京Y M C A 会 員部 遠藤仁子)